

平成30年度

専門学校盛岡カレッジオブビジネス

自己点検結果報告書

平成30年度自己点検・評価結果報告について

ここに学校法人龍澤学館専門学校盛岡カレッジオブビジネスの自己点検・評価結果を公表
致します。

学校法人 龍澤学館
理事長 龍澤 正美

1. 学校の教育目標

「社会で活躍できるホスピタリティ精神あふれる人材の育成」を教育理念とし、社会に有意な人材を輩出し業界への貢献を果たすとともに地域活性化に寄与する。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

外国人旅行者数の増大によるインバウンドや東京オリンピックに向けた動きが活発となってきた状況下、サービス系の仕事に就く本校の各学科における人材育成は、ますますその果たす役割が高まってきている。この社会的要請に応えるために、学生に対し専門的知識や技術はもとより、社会人として保持すべき基礎学力やマナー、さらには、グローバル社会での活躍を目指すよう語学力習得を促す。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

※適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1

(1) 教育理念・目標

	評価項目	自己点検・ 評価結果※
1	学校の理念・目的・人材育成像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	4
2	学校における職業教育の特色は何か	4
3	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
4	学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	4
5	各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4
課題	教育理念・育成人材像等について、入学後の定期的な周知や教室掲示を行い、昨年度よりも周知理解を広めることができたことが学生アンケート結果でも示された。	
改善策	継続的に教育理念や目標の理解を広める他、次年度からはAP、DP、CPの策定の上、学校や学科方針を広く提示していきたい。	

(2) 学校運営

	評価項目	自己点検・ 評価結果※
1	目的等に沿った運営方針が策定されているか	4

2	運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4
3	運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	3
4	人事、給与に関する規定等は整備されているか	4
5	教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
6	業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3
7	教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4
8	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4
課題	コンプライアンス体制の整備について、時代と共に様々なコンプライアンスが重視されているが、体制やガイドラインの制定が一部に留まっている状況である。	
改善策	学生指導や科目指導における研修や研究のみならず、社会的な課題やコンプライアンス等について理解を増やす機会を段階的に設けていく。	

(3) 教育活動

	評価項目	自己点検・評価結果※
1	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
2	教育理念、育成人材像や業界ニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
4	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
5	関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
6	関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4
7	授業評価の実施・評価体制はあるか	4
8	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
9	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4

10	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
11	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	3
12	関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	3
13	関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
14	職員の能力開発のための研修等が行われているか	4
課題	優れた教員の確保について、多くの非常勤講師に授業を依頼している現状であるが、学生指導姿勢や成果にバラつきが見受けられる。	
改善策	学生アンケートの結果分析や各授業シラバスの再設定、及び定期的な講師との情報共有等を試み、教員指導力の向上と学習成果の確立を目指す。	

(4) 学修成果

	評価項目	自己点検・評価結果※
1	就職率の向上が図られているか	4
2	資格取得率の向上が図られているか	4
3	退学率の低減が図られているか	4
4	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
5	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3
課題	卒業生の社会的活躍について、卒業生同窓会の開催が一部に留まっており、把握活動は進めることができていない。	
改善策	卒業生の全体的把握に向け、卒業後の就業状況調査はがきを郵送する等の状況把握の仕組みを整備していくように進める。	

(5) 学生支援

	評価項目	自己点検・評価結果※
1	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4

2	学生相談に関する体制は整備されているか	4
3	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4
4	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3
5	課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
6	学生の生活環境への支援は行われているか	4
7	保護者と適切に連携しているか	3
8	卒業生への支援体制はあるか	3
9	社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
10	高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4
課題	保護者との連携について、保護者向け説明会や三者面談の開催が少なく、修学状況や就職活動に向けた情報共有の体制としては十分とは言えない状況である。	
改善策	今年度より、就職活動開始前の時期において、保護者向けの就職活動説明会を開催しており、今後の開催も検討しながら、密な連携を取る手段を講じていく。	

(6) 教育環境

	評価項目	自己点検・評価結果※
1	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
2	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
3	防災に対する体制は整備されているか	3
課題	防災に対する体制として、訓練実施は簡易的な内容に留まっているため、対策が必要である。	
改善策	防災対策に関する計画を立て、関係各署と連携を取りながら、定期的な防災訓練・避難訓練の実施を進めていくことを検討する。	

(7) 学生の受入れ募集

	評価項目	自己点検・評価結果※
--	------	------------

1	学生募集活動は、適正に行われているか	4
2	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
3	学納金は妥当なものとなっているか	4
課題	学納金は妥当なものとなっているが、定期的な検証が必要か検討する。	
改善策	学納金について検証できるよう、法人本部と連携を図りながら検討していく。	

(8) 財務

	評価項目	自己点検・ 評価結果※
1	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
2	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
3	財務について会計監査が適正に行われているか	4
4	財務情報公開の体制整備はできているか	4
課題	法人本部で財務について適正に管理しており、財務情報についてはホームページで公開している。	
改善策	法人本部と今後も連携を図っていくこととする。	

(9) 法令等の遵守

	評価項目	自己点検・ 評価結果※
1	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
2	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	3
3	自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	3
4	自己評価結果を公開しているか	4
課題	個人情報保護の対策について、時代と共に様々な個人情報保護体制が必要視されているが、体制やガイドラインの制定が一部に留まっている状況である。	

改善策	学生指導や科目指導における研修や研究のみならず、社会的な課題やコンプライアンス等について理解を増やす機会を段階的に設けていく。
-----	---

(10) 社会貢献・地域貢献

	評価項目	自己点検・評価結果※
1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
2	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
3	地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4
課題	教育訓練制度に関して、平成30年度よりトラベルビジネス科及びパティシエ科において教育訓練給付制度の認可を得ることができ、再進学希望の入学者ニーズに応えるべく教育体制を整備している。	
改善策	今後も社会や地域のニーズに応えられる社会貢献・地域貢献活動に協力していくこととする。	

(11) 国際交流

	評価項目	自己点検・評価結果※
1	留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか	4
2	留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	3
3	留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	3
4	学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	3
課題	留学生の受入れについて、次年度からより多くの留学生の入学が決定しているが、在籍管理や学習・生活指導等について体制未整備な部分がある。	
改善策	留学対応に関して研修へ積極的に参加し、他校の対応事例を参考にしながら、本部組織の担当部署とも連携を取り、適切な対応にあたっていくこととする。	

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

数か年に渡り、学校教育目標や重点目標・計画を掲げ、達成のために学校体制整備と教育活動に取組み、昨年度よりも多くの項目において高い評価結果を得ることができた。しかし、時代・社会の変化に伴い、業界・分野も変化を遂げている中で、本校の専門能力を育成する教育カリキュラムや就業支援体制について、検討を重ねながら構築していく必要がある。

継続課題項目である、「コンプライアンス体制」「卒業生の状況把握・支援」「留学生受入れの在籍管理・学修生活指導」について、解決策の実施を始めており、手法や時期や成果を確認しながら取り組むこととしている。引き続き、課題意識に対する検討と分析を行いながら、本校の存在価値を高められるよう実施を進めていくこととする。

平成30年度

専門学校盛岡カレッジオブビジネス

学校関係者評価委員会結果報告書

平成31年2月

学校法人龍澤学館
理事長 龍澤 正美

平成30年度学校関係者評価 報告

学校法人龍澤学館 専門学校盛岡カレッジオブビジネスでは、本校規定に基づき、学校関係者評価委員会を実施致しました。以下に、その内容を報告致します。

今後は、各委員からの意見や指導等を真摯に受け止め、より良い教育、より良い学校運営を目指し、教職員一同努力して参ります。

引き続き、一層のご支援、ご協力をよろしくお願い致します。

1. 学校関係者評価委員

氏名	企業・団体名	部署・役職
中村 正樹	盛岡商店街協同組合	事務局長
高橋 学	株式会社北日本銀行	人事部長
新沼 翼	株式会社盛岡シティホテルズ ホテルロイヤル盛岡	
佐々木 七彩	株式会社北日本銀行 矢巾支店	
松原 葵	株式会社タルトタタン 八幡町本店	
工藤 昌雄	専門学校盛岡カレッジオブビジネス	校長
畠山 英之	専門学校盛岡カレッジオブビジネス	校長代理
角津田 寿恵	専門学校盛岡カレッジオブビジネス	事務局課長
中山 将孝	専門学校盛岡カレッジオブビジネス	教務課長
工藤 恭人	専門学校盛岡カレッジオブビジネス	教務主任

2. 委員会次第

- (1) 開会
- (2) 校長挨拶
- (3) 開催趣旨説明
- (4) 平成30年度自己点検委員会評価結果について
- (5) 意見交換
- (6) その他

3. 議論内容

本校の教育理念・目標と平成30年度に定めた重点目標と計画について説明を行った後、「専修学校における学校評価ガイドライン」を踏まえて作成した評価項目による自己点検・評価の結果に基づき、評価項目ごとに達成状況や取組み状況、改善策について順次、外部委員の皆様と議論を行った。

①教育理念・目標

学校の教育理念・目的・人材育成像については、昨年度よりも周知理解を広めることができおり、学生アンケート結果からも外部委員からも高い評価をいただくことができた。次年度に向けて、AP（アドミッションポリシー）、DP（ディプロマポリシー）、CP（カリキュラムポリシー）を設定し、より具体的な教育方針を掲げている旨も説明した。外部委員の方々からも、職業教育の特色や社会ニーズを考慮し、学生成長を前提にしながら教育活動に取り組んでいる内容は全国的にもトップレベルであることに賞賛の声と、今後の期待を込めた激励をいただいた。

②学校運営

「運営組織や意思決定機能について」「業界や地域社会等に対するコンプライアンスについて」は、個人情報保護やハラスメント等定義は広いがガイドラインの制定が一部に止まっている状況である。そこで、教職員で研究や研修を重ね段階的に定義していく方向性であることを説明した。外部委員からは特に意見はでなかった。

③教育活動

「人材育成目標の達成に向けた教員の確保」「関連分野における業界等との連携においた教育の確保」「関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための教員の取組み」は課題が残っている状況であることを説明した。年2回の学生アンケート実施、各授業のシラバス再設定、情報公開を行いながら課題解決を目指していることを補足した。外部委員からは、教職員の職場環境の見直しや改善も解決のために効果的である旨の助言をいただ

くことができた。

④学修成果

「卒業生・在校生の把握」「卒業後のキャリア形成への効果の把握」の項目について、卒業生の社会的活躍の把握活動は卒業生同窓会の開催が一部に留まっているため、今年度から卒業生の就業状況調査はがきを郵送する等の状況把握の仕組み作りを進めることを説明した。別資料にて「卒業生調査カード」の見本案を提示したところ、外部委員からはがきよりもメールやLINEによる手法の提案をいただいた。さらに、収集したデータの集約・活用方法やハガキへの使用目的記載についても助言をいただくことができた。状況把握活動に対する期待を受け、活動実施の重要性を再確認した。

⑤学生支援

今年度より就職活動開始前の時期において、保護者向けの就職活動説明会の開催を行い、今度の開催も検討しながら密な連携を取る手段を講じていくことを伝えた。外部委員からは、学生支援の方法については、これまでの三者面談以外にも、学生の目標設定を行い、定期的にその成長度合いを客観的にフィードバックする機会を設けることも助言いただいた。

⑥教育環境

施設・設備に関しては、教育上必要なものは整備されている一方、防災への対策としての訓練実施は簡易的な内容に留まっているため、具体的な年間スケジュールを立て、関係各署と連携を取りながら、定期的な防災訓練・避難訓練実施を予定していることを説明した。外部委員からも「防災教育」も大事な教育的要素であり、社会人の素養として必要性が高まっていることを助言いただいた。

⑦学生の受け入れ募集

学納金については、妥当なものとなっているが、今後も定期的な検証を行い取り決めていくことを説明した。外部委員からは特に意見はでなかった。

⑧財務

法人本部で財務に関して適正に管理しており、ホームページで財務情報を公開していることを説明した。外部委員からは特に意見はでなかった。

⑨法令等の順守

「個人情報保護の対策」「自己評価の実施と問題点の改善」について、『②学校運営』同様に体制やガイドラインの制定が一部であるため、研修や研究を重ね段階的にガイドライ

ンを制定していく方向性である旨を改めて説明した。

⑩社会貢献・地域貢献

概ね、いずれの項目においても高評価をいただくことができた。今後も社会や地域のニーズに応えられる社会貢献・地域貢献活動に協力していくこととしている。外部委員からは特に意見はでなかった。

⑪国際交流

「留学生の在籍管理」「留学生の生活指導」「国内外で評価される取組み」について不十分な部分が多く、留学生対応に関する研修へ積極的に参加し、他校の対応事例を参考にしながら、本部組織の担当部署とも連携を図り、適切な対応にあたっていくことを確認した。学習成果の情報発信については、時期や方法や効果等、まだまだ課題が多いことも確認した。外部委員からは、留学生のみならず、訪日観光外国人や外国人労働者の増加も想定されている今後の日本において重要な項目である旨のコメントをいただいた。

4. まとめ

自己点検の評価項目について、状況報告及び改善策の説明を行い、外部委員の方々からは概ね高い評価をいただくことができた。しかし、『③教育活動』『④学修成果』『⑤学生支援』『⑥教育環境』『⑪国際交流』等の項目において、課題として挙げられ、助言をいただいた内容については、検証と具体的対策を講じ、計画的に改善できるよう、努めていくこととする。

そして、「地域・社会やサービス業界で寄与できる人材の育成」を教育目標として、より充実した教育活動と高い学修成果を目指し、教育環境の整備に取り組んでいきたい。